

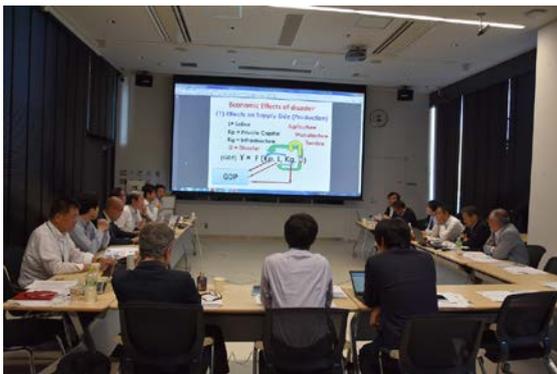
災害統計グローバルセンター(GCDS)防災投資効果のマクロ経済分析・ワーキンググループ 第1回専門家会合を開催しました(2018/6/4)

テーマ：災害統計、経済分析、国際連携
場所：災害科学国際研究所 1階 会議・セミナー室（宮城県仙台市青葉区）

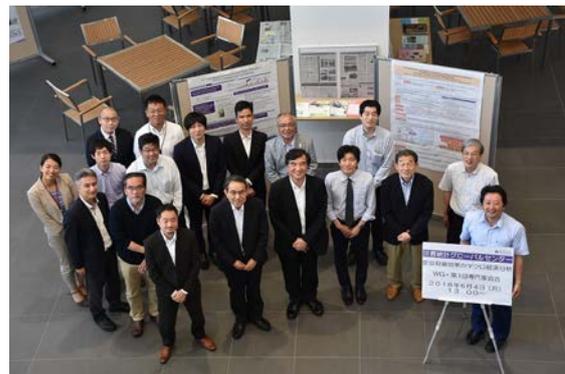
2018年6月4日（月）、災害科学国際研究所 1階会議・セミナー室において、災害統計グローバルセンター（GCDS）防災投資効果のマクロ経済分析・ワーキンググループの第1回専門家会合が開催されました。本会合では、災害科学、土木工学、経済学等を専門とした所内外の研究者が一堂に会し、DR²ADモデル（防災の主流化に向けた防災投資に関する経済分析モデル）を中心に、防災投資の経済効果をテーマとした研究発表等が行われました。

災害統計グローバルセンター長である小野裕一教授（情報管理・社会連携部門）から、開催挨拶及び本会合の趣旨説明等があった後、京都大学防災研究所の横松宗太准教授から、DR²ADモデル開発の学術的貢献と今後の課題について研究発表があり、続いてアジア開発銀行研究所の吉野直行所長から地域経済における災害に関する実証研究（An Empirical Analysis of Disasters on Regional Economy）について、音声録音による発表が行われました。

参加者からは、学際的・分野横断的な観点から様々な質問・コメントがあり、最適な防災投資水準の導出をはじめ、防災投資の経済効果に関する研究を進める上で大変有益な会合となりました。災害統計グローバルセンターでは、引き続き、所内外の研究者等と連携しながら、災害統計の発展に向けた学際研究を積極的に推進していきます。



会合の様子



出席者による集合写真

文責：佐々木大輔（情報管理・社会連携部門）